

## 「ハコもの」を推進する23年度予算の驚き!!

平成23年度の予算議会が終わり、過去最大規模の大型予算となった。

議会では、冒頭、市長は、昨年5月の市長選で「多くの市民支持を得た」と発言したが、常識的には、過去最低の投票率28.8%で54795票の得票では「多くの市民の支持が得られた」とは言えないのが常識的な見方ではないか。

一般会計では、878億円もの大型予算となり、その中の「目玉」が、総合保健センター(35億円)であり、新体育館(6億円)、JR春日井駅建て替え、調理場新設、保育園建て替え等である。

この中の「総合保健センター」予算は、昨年11月の「厚生委員会」に「中間案」として出された「(仮称)総合保健センター」の建設計画の具体化である。

その時には「一体、いくらかかるのか?」には全く答えず、ただただ「現・施設の老朽化」、「第1次救急医療体制の強化」、「新たなニーズに応える」ためとして、行政は遮二無二に突っ走り、加えて、議会はこの計画についての根本的な議論(本当に市民にとって、借金をしてまでも必要な施設なのか、という)をほとんどせず、「内容の充実や整備の拡充」を求める始末!!

そうした中で実施された「パブリックコメント」には、「事業規模=費用」も出さないで事業を進めるのは「本末転倒、市民軽視」との批判の声が挙がっていた。

そこでやっと「金額を出してきた」というのが今の市政の姿勢である。

私たちは今改めてこれらの「ハコもの」が本当に必要かどうか「市民の議論」を何より求めたい。

そのことなしに、未来に大きな「ツケ」を回すこうした事業を推進するのは、市民への奉仕者としての行政の責務を果たしていないだけでなく「住民軽視」そのものであると言うしかない。

市長は、「将来のために必要な投資は推進していく」として、1821億円もの借金(22年度決算見込み額)を抱える中で、法人市民税が昨年比55%増える(28.8億円)との予測から過去最大の「積極予算」を組んだが、内実はお寒い限りである。

借金(市債)を86億円と、前年比13%も増やさざるを得ず、貯金に当たる財政調整基金も13億円を取り崩さなくては組めなかったのが実態なのである。

今後の財政の厳しさ(個人市民税の減少、社会保障費用の増大、震災による景気の腰折れでの法人市民税の減少等)を考えると今回出された予算案は、それらへの対応はせず、相変わらず「ハコもの」的発想、「子や孫へのツケ回し」施策が続いているのが春日井市なのである。

もう、行政、議会を変えるっきやないのです。

田代まさひろは、立ち上がりました。

皆様、是非、ご一緒に、改革をやりましょう!!

これで、市民の意見を聞いたことになるのか？

とんでもない !!

このような、巨額の負担が発生する「事業」には、市民の同意が必要な時代である。住民投票を求める。

そして、今回(2月8日)の厚生委員会に出された「案」で、初めて**概算事業費**として「約35億円」の数字が出た。

去年の1月に、新聞で報道された内容では3階建ての敷地面積6000㎡だったが、「案」では、4階建ての敷地面積8000㎡となった。

何よりも、一世帯当たり131万円、全体で1853億円もの借金を抱えている我等が街 春日井市。

平成22年度でも、95億円の借金を返しながらか、76億円を新たに借金をしないと予算が組めないという「自転車操業」の状態の街となっているのに。

こんなことでいいのか？

もう、市民が立ち上がり、こうした「ハコもの」行政にストップをかけるっきゃ在りません !!